

英文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
英文学特論Ⅲ	英国ルネサンス歴史劇: 暴君と反乱	2	TINK JAMES MIC HAEL	1	火曜3限
英文学特論Ⅳ	エリザベス・ボーウェンと 第二次世界大戦文学	2	TINK JAMES MIC HAEL	2	火曜3限
英語文化論特論Ⅱ	近代批評と実践 	2	鈴木 英明	1	集中講義
英文学・英語学論文作成 法特論Ⅲ	アカデミック・ライティングⅠ (大学院英語)	2	TINK JAMES MIC HAEL	1	木曜2限
英文学・英語学論文作成 法特論Ⅳ	アカデミック・ライティングⅡ	2	TINK JAMES MIC HAEL	2	木曜2限
英文学研究演習Ⅲ	研究発表の実践	2	大貫 隆史	2	金曜4限
英語文化論研究演習Ⅲ	Raymond Williams, Border Country	2	大貫 隆史	1	金曜3限
英語文化論研究演習Ⅳ	Raymond Williams, The Sociology of Culture	2	大貫 隆史	2	金曜3限

科目名：英文学特論Ⅲ

曜日・講時：火曜3限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM12307, 科目ナンバリング：LGH-LIT612J, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英国ルネサンス歴史劇：暴君と反乱

2・授業の目的と概要：歴史劇は、中世イギリスの歴史上の出来事を再現した近世の大衆劇である。愛国心、民俗文化、民衆の記憶への訴えと、専制政治と自由、反乱と内戦、16世紀末の政治と主権に関するその他の思想についての論争とを組み合わせ、シンクレティックな作品であった。このコースでは、2つの重要な例を学び、比較する：クリストファー・マーロウ作『エドワード2世』(1592年)は、背徳的な欲望が反乱を引き起こした、悪名高いイングランド王の興亡を描いている。ウィリアム・シェイクスピア作『リチャード2世』(1595年)は、中世王朝の没落と

3. 学習の到達目標：1: 2つの戯曲を英語の原文で読む；

2: 近世歴史劇のジャンルを理解する；

3: 民衆劇が近世イングランドの政治思想や社会紛争にどのような影響を与えたかを知る；

4: 文学批評と近代文学研究における戯曲の意義について考察する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

クリストファー・マーロウ『エドワード2世』第1幕

エドワード二世 第二幕

エドワード二世 第三幕

エドワード二世 第4幕

エドワードII世 (第5幕

ウィリアム・シェイクスピア『リチャード2世』第1幕

リチャードII世 第2幕

リチャードII世 第3幕 第1部

リチャード2世 第3幕 第2部

リチャード2世 第4幕 第1部

リチャード2世 第4幕 第2部

リチャード2世 第5幕 第1部

リチャード2世 第5幕 第2部

結末

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(25%) 中間課題(25%) リサーチエッセイ(50%)

6. 教科書および参考書：William Shakespeare, Richard II, edited by Charles Forker, Arden Third Series (Bloomsbury, 2015).

Christopher Marlowe, Edward II, edited by Marin Wiggins and Robert Lindsey (Methuen, 2014).

7. 授業時間外学習：口頭発表、小論文

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学特論IV

曜日・講時：火曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM22302, 科目ナンバリング：LGH-LIT613J, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エリザベス・ボーエンと第二次世界大戦文学

2・授業の目的と概要：このコースでは、第二次世界大戦中とそれについて書かれたイギリス文学を検証する。戦時中の文学の評価は、批評家たちの間でも異論があり、論争が続いている。戦時下の社会状況が、文学作品の生産と消費の条件に悪影響を及ぼしたからである。本講座では、1940年代のイギリスの市民生活の描写が高く評価されているエリザベス・ボーエンの作品を取り上げる。戦時中に発表された彼女の短編小説のセレクションを検討した後、戦時中の生活を描いた小説『The Heat of the Day』(1948年)に焦点を当てる。この小説は、戦時中の

3. 学習の到達目標：エリザベス・ボーエンの小説を読み、第二次世界大戦中に制作された後期モダニズム小説の例を検討し、1940年代の文化史をより深く理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. 英国の詩と戦時下
3. 戦時中のドキュメンタリー映画
4. ボーエン “悪魔の恋人”
5. ボーエン “幸福な秋の野原”
6. ボーエン 「不思議なコール
7. ボーエン 『昼の熱気』 第1章と第2章
8. 日中の熱気』 第3章、第4章、第5章
9. 日中の熱気』 第6章、第7章
10. その日の暑さ、第8章と第9章
11. その日の暑さ、第10章と第11章
12. その日の暑さ、第12章と第13章
13. その日の暑さ、第14章と第15章
14. その日の暑さ、第16章と第17章
15. おわりに

5. 成績評価方法：プレゼンテーション 25% 中間ペーパー 25% 期末エッセイ 50

6. 教科書および参考書：Elizabeth Bowen, The Heat of the Day. 1948. Vintage, 1988. 短編集のコピー

7. 授業時間外学習：近代小説と文学批評の読解、近代史の異文化認識、作文と口頭発表のスキル

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness
教科書の選択は、入手のしやすさと手頃な値段による。コースワークには欠かせない。

9. その他：

科目名：英語文化論特論Ⅱ

曜日・講時：集中講義

Semester：1 単位数：2.00 単位

担当教員：鈴木 英明

コード：LM98825, 科目ナンバリング：LGH-LIT615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代批評と実践

2・授業の目的と概要：Oscar Wilde、Paul de Man、Shoshana Felman らの批評テキストを参照することによって、近代の、美学と区別された批評という危いジャンルを再考します。Kant によれば、人間の認識は、感性が捉えた感覚的データを悟性・理性が論理的に秩序づけることによって可能となります。感性は、あくまでも悟性・理性の統御下にあるわけです。近代批評は、この従属的な感性の働きのなかに、悟性・理性による認識の限界を露呈させる契機を見いだすことによって新たな意味形成をめざす試みであるともいえるでしょう。

- 3. 学習の到達目標：**
1. 近代批評に関して新たな視点を獲得する。
 2. 行為遂行性＝実践性という観点から文学研究を考えることができる。
 3. 近代批評に関わる哲学や精神分析理論について基本的な知識を得る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 批評と行為 1 (Wilde)
3. 批評と行為 2 (Wilde)
4. 批評と行為 3 (Wilde)
5. 批評と行為 4 (Wilde)
6. 精神分析とレトリック (Felman)
7. 精神分析とフェミニズム (Felman)
8. 語る身体のスキャンダル 1 (Felman)
9. 語る身体のスキャンダル 2 (Felman)
10. 「ダヴォス討論」と冷戦期米国の批評 (de Man)
11. Martin Heidegger と批評 (de Man)
12. Kant の唯物論 (de Man)
13. アイロニーと批評 (de Man)
14. 総括的議論
15. 筆記試験

5. 成績評価方法：リアクション・ペーパーによる平常点 (40%) 期末試験 (60%)

6. 教科書および参考書：教材は各回の授業で担当者が PowerPoint で提示する。

7. 授業時間外学習：期末試験に備え、毎回の講義内容の復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学・英語学論文作成法特論Ⅲ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM14205, 科目ナンバリング：LGH-LIT618E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミック・ライティング I (大学院英語)

2・授業の目的と概要：このコースは、大学院生がアカデミックな課題を英語でうまく書くために必要なスキルを身につけることを目的としている。学期中、学生は2本のエッセイを書くことで、学術論文の準備、草稿作成、編集に必要な段階を確認し、練習する。各週の授業では、ブレインストーミング、アウトライン作成、推敲、文体の練習など、ライティング課題に必要な特定のスキルやストラテジーを確認する。また、MLA や必要であればAPA を使った引用のスキルも学ぶ。

3. 学習の到達目標：コース終了時には、以下の学習目標を達成する： (1)英語で小論文を準備し、書くことができる (序論-本文-結論の形式) (2)学術的な引用と参照のスキルを理解する (3)学術的な語彙とスタイルのスキルを向上させる。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 はじめに
- 2: ライティング課題1の準備、執筆、編集の週間段階(全クラスにライティング演習が含まれる)
- 3: 課題1 (続き)
- 4: 課題1 (続き)
- 5: 課題1
- 6: ライティングスキル：意味と意味合い
- 7: ライティングスキル：フォーマルスタイルとインフォーマルスタイル
- 8: ライティングスキル：引用と引用文
- 9: ライティングスキル：参考文献
- 10: 課題2
- 11: 課題2 (続き)
- 12: 課題2 (続き)
- 13: 課題2 (続き)
- 14: 課題2 (続き)
- 15: まとめ

5. 成績評価方法：エッセイ1 40%

エッセイ2 40%

小論文演習 (20%)

6. 教科書および参考書：Babington et al. Broadview Pocket Guide to Writing (Broadview, 2016)

7. 授業時間外学習：パラグラフ・ライティング、エッセイ・プランニング、英語でのエッセイ・ライティング

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

教科書の選択は、入手のしやすさと手頃な値段による。コースワークには欠かせない。

9. その他：

科目名：英文学・英語学論文作成法特論Ⅳ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LM24205, 科目ナンバリング：LGH-LIT619E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミック・ライティング II

2・授業の目的と概要：この授業は、前学期に行われたライティングの授業の続編であり、英語で研究論文／エッセイを書くためのスキルを身につけることを目的としている。そのため、この授業では、学期中に2つの長文の課題研究を課すことで、学位論文のような人文科学における長文の研究プロジェクトを書くためのスキルに集中する。毎週、リサーチ・ライティングの1つの側面について、執筆前の段階から最終的な編集まで、復習と練習を行います。コース終了時には、アカデミックな目的のために英語で文章を書くための、より洗練された「声」を身につけることができるはずで

3. 学習の到達目標：コース終了時には、以下の学習目標を達成する：(1)人文科学の論文スタイルを理解する (2)学術的な議論がどのように書かれるかをよりよく理解する (3)学術的な語彙とスタイルのスキルを向上させる。 .

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 リサーチ・ライティング入門
- 2 “トピックから質問へ”
- 3 “質問から問題へ”
- 4 「問題から情報源へ
- 5 “情報源への関与”
- 6 “良い主張をする”
- 7 “良い主張をする”
- 8 「理由と証拠 [最初の課題提出]
- 9 “根拠”
- 10 「情報源を取り入れる
- 11 “スタイルを修正する”
- 12 視覚的証拠の使用
- 13 要約と要約
- 14 練習
- 15 最終課題提出

5. 成績評価方法：小論文 1 回目 40%、

小論文 2 回目 40%

その他の筆記試験 20%

6. 教科書および参考書：Booth et al. The Craft of Research. 5th edition (University of Chicago Press, 2024)

7. 授業時間外学習：リサーチスキル（ノートの取り方、情報源の選択）

英作文

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

教科書の選択は、入手可能かどうか、手頃な価格かどうかによる。

9. その他：

科目名：英文学研究演習Ⅲ

曜日・講時：金曜 4 限

semester：2 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LM25406, 科目ナンバリング：LGH-LIT622E, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究発表の実践

2・授業の目的と概要：この演習では、英語圏の文学や文化的作品について、それをめぐるコミュニケーションの実相について、先行研究を踏まえつつ発表を行ってもらふことを目的とします。

3. 学習の到達目標：(1) 学術的な発表の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Presentations
3. Presentations
4. Presentations
5. Presentations
6. Presentations
7. Presentations
8. Presentations
9. Presentations
10. Presentations
11. Presentations
12. Presentations
13. Presentations
14. Presentations
15. Discussion

5. 成績評価方法：発表、参加度合い、レポートを総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書：プリントなどを配布します

7. 授業時間外学習：演習内で取り上げられた作品や先行研究などを、読んだり調べたりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

本演習は、原則として、英文学専攻分野所属の学生のみ履修できます。ただし、本演習に関連するトピックで論文を書く場合などは、履修を認める場合があります。

科目名：英語文化論研究演習Ⅲ

曜日・講時：金曜3限

Semester：1 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LM15304, 科目ナンバリング：LGH-LIT626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Raymond Williams, Border Country

2・授業の目的と概要：文化や文学の理論家として広く知られるレイモンド・ウィリアムズは、公刊されたもので六編の小説の書き手であり、じつは、小説の執筆にもっとも大きなエネルギーを費やしていたとされています。彼の最初の小説 Border Country を、この演習では分析していきます。これにより、ウィリアムズの言う、「フォーム」や「感情の構造」とは何か、よく理解できるようになり、それは、他の作品をめぐる分析にも大いに役立つものと思います。授業では、毎回担当を決め、その報告をもとに議論していきます。

3. 学習の到達目標：(1) 小説の形式について実践的な理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. Border Country (1)
3. Border Country (2)
4. Border Country (3)
5. Border Country (4)
6. Border Country (5)
7. Border Country (6)
8. まとめ (1)
9. Border Country (7)
10. Border Country (8)
11. Border Country (9)
12. Border Country (10)
13. Border Country (11)
14. ディスカッション
15. まとめ (2)

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・レポート 50%

6. 教科書および参考書：Raymond Williams, Border Country (Parthian)

7. 授業時間外学習：授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語文化論研究演習IV

曜日・講時：金曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LM25306, 科目ナンバリング：LGH-LIT627J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Raymond Williams, The Sociology of Culture

2・授業の目的と概要：レイモンド・ウィリアムズ『文化のソシオロジー』を読んでいます。本書は、「ソシオロジー」というタイトルが入っているせいか、あまり広く読まれていなものとなっています。ですが本書は、ウィリアムズの理論的著述の中でも、文学研究の未来を示しうる重要な著述のひとつと言えるものです。本演習では、言及される文学作品も読みながら、本書を書くウィリアムズの意図を、時間をかけて読み解いていきます。授業では、毎回担当者を決め、その報告をもとに議論してきます。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品を「かたち (form)」という観点から理解する
(2) 理論的な著述における英語の読解能力を養う
(3) 対象となっている作品についての理解を深める

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 感情構造の記述と文化の社会学は、同時に実践可能か？
2. Towards a Sociology of Culture, The Sociology of Culture
3. Institutions, The Sociology of Culture
4. William Godwin, Things as They Are; or The Adventures of Caleb Williams を読む (1)
5. William Godwin, Things as They Are; or The Adventures of Caleb Williams を読む (2)
6. Formations (1)
7. Formations (2)
8. Means of Production, The Sociology of Culture
9. Identifications, The Sociology of Culture
10. Forms (1)
11. Forms (2)
12. George Eliot, Felix Holt を読む (1)
13. George Eliot, Felix Holt を読む (2)
14. Reproduction, The Sociology of Culture
15. Organization, The Sociology of Culture

5. 成績評価方法：発表と授業参加50%・レポート50%

6. 教科書および参考書：教科書：Raymond Williams, The Sociology of Culture. (The University of Chicago Press, 1995)

7. 授業時間外学習：授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：